

# トキ鉄の経営計画などで島津社長が講演

糸魚川、妙高、上越の3市議会合同研修会が14日、糸魚川駅のすぐそばの「ヒスイ王国館」で行われました。

第一部はえちごトキめき鉄道の島津社長の講演。同社の経営計画や開業準備状況などをお聴きしました。そのなかで上越の観光にふれ、「一本木のスイッチバックや筒石の地下駅などの鉄

道そのものも観光資源のひとつだと述べていました。今後、どんなピーアールをしていくのか注目です。

講演後の質疑では、開業を4カ月後に控え、注目されていることがいくつか質問や要望などの形で出ました。ひとつはJRからの資産譲渡がどうなっているかです。島津社長は、「不要な

の、糸魚川から新井までの直通運行を」との要望も出されました。これには「開業年度は運行本数を増やすことに力点を置きたい」との答弁がありました。

他には、新潟への特急列車が1本になったことなどをあげて、「糸魚川は負担に見合っただけで、利益を享受できていない。トキ鉄として利便性を上げる努力を」との訴えもありました。

12月7日に予定しておりました「豆腐の上の原発」を学ぶつどいは、都合により延期します。開催日時が決まり次第、あらためてお知らせします。どうかご承知くださいますようお願いいたします。



資産はいただかない。現在、県を通じたリストをもらい、チェックしている段階だ」と答えました。また、同社の2つの路線は通学利用が多いことから、「朝の通学では直江津駅で乗り換えなし

た。第二部は新しくなった糸魚川駅の視察です。自由通路、在来線の改札口、電光掲示板などを見ってきました。JRの東と西では、電光掲示板などのイメージが違うものだということが話題になりました。それにしても寒



また、この間進められている総合事務所の産業建設グループの集約の問題では、「災害の際には職員は休みなしになり、負担が大きく心配だ」「職員が減らされ、臨時職員ばかりになって、適切な対応ができていない。特に休日の対応はお粗末だ。もっといねいな対応をすべきだ」「総合事務所の管理が、地元のNPOから他区の業者にかわったとたん、災害の通報ができないなどの支障が生じている。改善すべきだ」といった切実な意見が出されました。

## 市内4会場で議会報告会

10・11の両日、市議会主催の議会報告会・意見交換会が市内4会場で行われ、安塚区と吉川区では、平良木議員が文教経済常任委員会の説明者として参加したほか、吉川区には橋爪議員が記録担当として参加しました。

このうち、安塚会場には、同区の市民を中心に22人がつどいました。冒頭の各議員からの9月議会の報告の後、厚生産業会館の基本設計や、総合事務所の職員数などについての質問や意見が出されました。

(仮称)厚生産業会館に関することでは、「ワークショップの人数や参加した団体数はいかほどか」「床面積が大きく増えているが、雪対策はどうなのか。豪雪地帯での平屋建てはいかかなものか」「維持費が3500万円というのはかなり大きい、その他に雪おろしの費用もかかるのではないか」「あまりにも利用者の意見を聞きすぎではないか」といった声が出されました。

## 安倍暴走政治にストップをと街頭宣伝

はしづめ法一議員団長は13・16の2日間、高橋みきこさんとともに、市内各地で街頭宣伝を行いました。

はしづめ議員と高橋みきこさんは、衆議院の解散、総選挙の可能性が大きくなったことをとらえ、「消費税、原発、農業、防衛などあらゆる分野で矛盾が深まり、安倍内閣が国民の世論や運動に追い詰められた結果だ」と述べました。

そして、集団的自衛権行使容認の「閣議決定」の具体化、消費税の10%への増税、雇用と社会保障の大改善、原発再稼働、沖縄新基地建設などを例に挙げながら、「どれをとっても、安倍内閣は暴走の途上にある。それだけに暴走をストップさせる絶好のチャンスがやってきた」「安倍暴走政治に正面から対決し、国民的対案を示し、国民との共同を広げてきた日本共産党の躍進で、暴走政治をストップと政治の転換を」と訴えました。



### 日本共産党上越市議員団ニュース

No. 436 2014年11月23日

連絡先

橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)  
上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)  
平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)